結成20周年
新たな大躍進に向け出発！

動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
2000.2.7 No. 5084

東労組の「平和共存打破」運動

「使い捨て」にビクビクしつつ 組合員への徹底したしめつけ

お茶も一緒に飲むな！

JR東労組千葉地本はこの間、**「他労組とはお茶もいっしょに飲むな」「他労組とは個人的なつき合いもやめろ」「飲みにもいくな」「他労組といっしょにやっている職場の親睦会などは解散しろ」**という指令をおろし、職場集会などを開かせ、反対の声を無視して、この方針を職場におしつけようとしている。

習志野運輸区では、革マル系役員が突然、「親和会は解散だ」と言いだして、それを組合員におしつけるための非番者集会が開催され、京葉運輸区でも分会名で「組織破壊分子が入っている『京葉会』について考えていかなければならない」という掲示がだされ、また千葉運転区でも、三日間にわたり非番者集会が開かれて「仕事上でも協力もするな」という話しがされている。成田車掌区でも昨年末から同じことが起きるなど、彼らが「平和共存打破」と自称する運動を一斉にはじめた。

強引なおしつけ

もちろん職場では、疑問や反対の声が山ほどあがり、こんな方針をかつぎまわっているのはごく一部の革マル系役員だけだが、地本は「これは決まった方針だ」という一点ばりで強引におし通そうとしている。例えば、昨年12月に開かれた東労組成田車掌区分会の非番者集会は、次のような状況だったという。

組合員　銚子会を突然中止したのはなぜか。会にはOBや先輩が多くいる。
地本　答えず。
組合員　行路によっては東京派出で共同で弁当を買って食べなければならない。それまで廃止するのか。
地本　地方本部の案です。
組合員　お茶も組合別にするのは納得がいかない。
地本　地方本部の案です。
組合員　まるで子供のケンカですね。
地本　答えず。
組合員　私たちは、仕事上わからない事が多い。今現在はすぐに聞く事ができるが、もし地本の案のようになったら他労組の人には聞けなくなる。それでミスしたら誰が責任をとるのか。
地本　答えず。
組合員　私は最後まで絶対反対だ。どうなるのか。
地本　最後は東労組をやめてもらう。

いったいなぜ！

だが東労組は、なぜこんなやり方で自分たちの組合員をしめあげなければならないのか？一体何を目的にしているのだろうか。普通の常識では理解できないことだ。

ただはっきりしていることは、会社と一体化して東労組を牛耳る革マル系の役員は、自分たちの組合員のことを「全く信用できない連中だ」と見ているということだ。労働組合としての一番の基本である仲間としての団結や信頼関係が完全にゼロだということである。

なぜ東労組は信頼関係も団結も築けないのか。――それは、東労組という組合がその発端から、会社の力だけを頼りにしてできた組合だからだ。西日本や東海のように、経営幹部の方針が変わればそれで終しまいの組合だ。だから、いつ使い捨てられるのか、常にビクビクしながら、会社には奴隷のように忠誠を誓い、他方、組合員に対しては徹底したしめつけを行うという、完全に逆立ちした事態が生まれるのである。

一番汚いやり方だ！

革マル系の役員たちは、「動労千葉や国労、鉄産労は組織破壊者だ」というが、動労千葉は、現実にありとあらゆる差別を受けながら、それでも正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると胸を張って言おう、労働者としての権利は堂々と主張しようと訴えて闘っている。われわれは会社の手先になるようなことだけはしない。

東労組の運動は、人間がもつ弱さにつけこむ運動だ。労働者である以上、誰だって賃金は少しでも多くもらいたいし、昇進もしたい。強制配転されたりすることはいやだ。それは当然のことだが、他人をけ落とし、差別してまで自分だけがいい思いをしようとするのは一番汚いことである。東労組の運動はそういう運動だ。

会社はつねに労働者を差別し、分断して支配しようとする。仲間どうしでけ落とし合わせるのが一番支配しやすいやり方だからだ。色々な理屈を並べても、東労組がやっているのは、その手先の役割を果たしているだけのことにすぎない。

行き着く先は？

だがそれも、会社と手を結んで動労千葉や国労の組合員を差別しているだけで済むはずはない。会社が全員に甘いエサを与えることなど絶対ありえず、結局は東労組のなかでも、いい思いをするのは一部の役員や、それにくっついていく者だけということになる。そして、それに疑問をはさめば、組合が会社になり変わって「文句を言う奴は組織破壊者だ」と非難するのだ。

厳しくとも仲間を信頼し、団結して闘おうという運動でない以上、後は組合員を力で支配するしかなくなるのは当然で、行き着く先は、「平和共存打破」とか、「組織内のウミを一滴残らず絞りだす」と称する運動しかなくなるのである。しかしこんなことは百％失敗するだろう。

労働組合運動は、**「ひとりは万人のために、万人はひとりのために！」**というスローガンから始まった。これが労働組合の原点だ。東労組の運動は、断じて労働組合の運動とは言えない。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！